

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 嶽陽会	代表者	三浦 隆	法人・ 事業所 の特徴	事業所の特色として、法人で行っている①「通院等移送サービス」、②「配食サービス」、③「在宅介護者教育」、④「災害時避難所」、⑤「トータルケアサービス」、⑥「嘱託医や協力医療機関との連携」の6つの機能を小規模多機能のサービスと組み合わせ、利用者やその介護者に対してより重層的なサービスを提供できる体制を確保している。
事業所名	生活多機能支援ホーム パインの雫	管理者	高杉 勇希		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	人	2人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①事業所内で改善に取り組んだ結果を自己評価だけでなく、運営推進会議の際にも報告することで、取組みに対する進捗具合も知ってもらおう。</p> <p>②対応が難しかったケースについては、包括で行っている地域ケア会議で取り上げてもらうようお願いする。(事業所としての対応の再検討や地域課題へとつながるかも知れない)</p> <p>③職員それぞれの得意な部分や経験のある部分があるので、これまで以上に力を合わせて改善計画に取り組んでいく。</p>	<p>①報告の時期が難しく、上半期が終了する11月での報告となる予定。</p> <p>②地域ケア個別会議で取り上げてもらい、対応の検討や今後の支援に繋がるヒントを得られた。</p> <p>③零会議やミーティングなどで話し合い、実行可能なものについては協力して改善へと取り組んでいる。</p>	<p>・スタッフ達がみんなで情報共有し、ミーティングされているのでとても良いことだと思います。</p> <p>・職員一人一人が自己評価に取り組んでおり、各項目ごとに達成度のバラつきが見られますが、チームとしての目的や取組みを明確にし、チームリーダーが個々の職員の意識や課題などを把握していると思われますので、今後の達成度の変化に期待が持てます</p> <p>・地域ケア会議以外でも、事例検討会として取り上げていただいてもかまいません。</p> <p>・自己評価したことを第三者(運営推進会議)へ報告することで、スタッフのスキルアップにもつながると思います。</p>	<p>①これまでの取組みやその過程を可視化し、話し合いの場になかった職員で分かるようする。また、異動してきた職員にも分かりやすいよう、目的や取組みを指導・掲示する。</p> <p>②地域ケア個別会議へ事例提出して取り上げてもらい、今後の支援に繋がるヒントを得ることで、サービスの質の向上を図る。</p> <p>③可能であれば、地域ケア個別会議へ職員を参加させてもらい、地域ケア会議について職員への周知を図る。(上半期・下半期それぞれ1名以上の参加が目標)</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>来所者が呼び鈴の場所が分からなかったということが多々あるので、その活用方法を検討し、対応する。</p>	<p>玄関先に呼び鈴があることを示す貼り紙を掲示した。</p>	<p>・利用者が自らの意思で屋外に出たい場合に、自ら内施錠が解けなく利用者本人の行動が抑制されているのでは問題があるかと思いますが、防犯の観点から日中帯であっても玄関の鍵をする必要性も検討が要るかと思います。</p> <p>・自由に出入りすることが出来、開放的です。</p> <p>・パインの森へ利用料支払い時に伺っておりますが、呼鈴などがあれば便利だと思います。特にコロナ</p>	<p>①呼び鈴の場所を外部の人により分かりやすく、目立つよう更に工夫する。</p> <p>②風除室内に、パインの森へ来客した方のための呼び鈴を検討してみる。</p>

			過なのでインターフォンなどが有効かと思います。	
C. 事業所と地域のかかわり	<p>①「事業所と地域のかかわり」という項目に関して、新型コロナ感染拡大防止の観点から積極的に行うことが出来なかったが、状況を見ながら昨年度実施することが出来なかった点を実施してみる。</p> <p>②児童センターへ行きたがらない小学生もいるとのことで、そういった子供でも気軽に来ることが出来るような取り組みを行う。例えば、職員の子供から声がけを試してみる。</p> <p>③直接の交流が難しいと考えられるので、それに代わる活動（動画やインターネットなど）を検討し、可能であれば実行して試してみる。</p>	<p>①新型コロナが収束へ向かう様相が見られず、地域での行事が開催されず、事業所としても積極的交流を図ることが出来なかった。</p> <p>②新型コロナ感染拡大防止の観点から、児童との交流を図ることが出来なかった。</p> <p>③直接交流に替わる活動自体が検討出来ていなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方に回覧とかで PR した方がいいかも。 ・コロナ過で行事やイベント等開催することは難しいと思います。中でも、職員間で話し合いなどして対策を考えたのか？ ・コロナ禍において、特に高齢者施設は以前ほど地域との関りが持てなくなっています。行動が制限され地域イベント自体が自粛ムードの中、間接的に関わる活動の事例など、まずは他事業所の取り組みを情報収集するのも良いかと思います。 ・一町田町会の役員会や班長会議の席上で、運営推進会議への出席していることを報告する形にしています。町会広報などにも掲載（会議があったこと）していく方向で考えています。 	<p>①保育園や児童館などを直接訪問しての交流は難しいと思われるため、敬老の日などを通じて、プレゼント（手工芸の作品など）を交換して交流を図れるよう計画する。</p> <p>②他法人の小規模多機能ではどういった取り組みを行っているのか？電話や見学などを通じて確認し、零の取組みの参考にする。</p>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>①利用者の中で、訪問のみの利用の方がいるので、その利用者の誕生日を零で行い、事業所へ来るきっかけ作りを行う。同様に、零で行う行事（外での昼食会やクリスマス会など）への参加の声をかけを行う。</p> <p>②以前のように利用者全員で食事に出かけることがとても難しい状況なので、本人が希望するのであれば職員と共に昼食へ出掛ける機会を設ける。</p> <p>③新型コロナ感染拡大の観点から、地域の人や近所の人へ呼びかけて何かを行うのは難しい状況のため、零登録者への働き掛けを</p>	<p>①声掛けは行ったものの、「知らない利用者の中に行きたくない」という方もいた。逆に、声掛けにて来所され、そのまま通いの利用に結びついた利用者もいた。</p> <p>②新型コロナ感染拡大防止のため、事業所で声掛けしての外出は自粛したため、機会を主蹴られなかった。</p> <p>③上記の①にもあるように、零の行事への参加を声掛けし、訪問のみの利用だった方へ参加してもらうことが出来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ過で利用者が「ここに来て、良かった」と思える様な行事やイベントをもっとやって欲しい。 ・スナップ写真を見て、「ああいなあ」と思っている事もたくさんあり、続けてほしいと思います。（コメントも最高です） ・アウトリーチを行い気になる或いは見守りが必要な方たちを利用へ結びつけることは難しい状況にあるため、地域包括支援センター、地区民生委員などの配慮が必要な住民との関わりの深い組織と連携し、その機能を活用できる関係を作っていくことが必要。 	<p>①零での活動の様子を、利用者が気軽に見ることが出来るような工夫を行う。</p> <p>②選挙の際、投票へ行きたいという利用者（あくまでも一人暮らし、高齢者のみ世帯）へ声掛けし、支援する。</p> <p>③コロナ過ではあるが、外出や外食も含め企画し、可能であれば実施していく。</p>

	中心に活動していく。			
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>①会議の様子を写真で残し、その様子も記録として残すようにする。</p> <p>②運営推進会議は今後も開催が難しいと考えられるため、配布資料へ説明などを加え、見た目での分かりやすさの向上を図る。</p>	<p>①職員会議の様子を写真で残すということをしておらず、従来通りの会議録のみとなってしまう。</p> <p>②推進会議の資料として配っている活動をまとめたものへは、利用者のコメントやその時の状況などを加え、改善は図った。</p>	<p>・現状では運営推進会議の開催は難しいため、書面での説明を行い、質問や意見を受ける双方向性を持った方法を導入することは出来ないか？(メール・FAXなど)</p> <p>・地域の困りごとの意見はまだまだあると思いますが、それらを把握している包括や行政の方々が当会議に出席されていますので、事例をお話しいただける機会があれば、今後、事業者が地域と連携を図るうえで参考になるかと思います。</p>	<p>①会議の内容が参加していない職員にも分かるよう、会議後のミーティングなどで伝える。</p> <p>②書面会議の際はメールやFAXなどで質問を受け付け、それに対して返答するという双方向性のある会議を実施していく。</p>
F. 事業所の 防災・災害対策	<p>①想定される風水害が発生した時の対応について、勉強会または口頭などで職員へ周知する機会を設ける。</p> <p>②可能であれば、避難訓練の際に運営推進委員や消防団、地域住民に参加してもらおう。そのための声かけを行っていく。</p>	<p>①今年度はまだ実施されていないものの、事業所内での勉強会において高杉が講師として行う計画は組まれている。</p> <p>②上期総合避難訓練開催時は、二度のワクチン接種が終わっていない方もおり、参加の声かけを行うことが出来なかった。</p>	<p>・今はコロナ禍のため無理ですが、収束した際には是非見学できればと思っています。</p> <p>・防災訓練について一町田町会も協力する体制を計画していますので、声掛けいただければ幸いです。</p> <p>・特に水害リスクは被害を受ける地域の特性によってそれぞれ異なるため、運営推進会議を活用し、地域の実情に詳しい町会関係者などとの意見交換を通して運営に反映できれば良いと思います。</p>	<p>①福祉避難所について、基本的な部分を学ぶ機会を確保し、事業所の職員へ周知する。</p> <p>②事業所で行っている初動訓練の際、地震や水害なども想定し行う。</p>

